

# 岩手県職労

月2回刊=1630号  
2023年8月15日 発行  
発行日 毎月15日30日  
発行所  
盛岡市内丸10番1号  
岩手県庁内  
岩手県職員労働組合  
印刷所  
盛岡市上田二丁目17-4  
有限会社 ジョー印刷企画  
一部 40円  
組合員購読料は組合費に含む

## 岡 盛市議選

# 野中やすし 2期目当選 8位 2980票獲得

8月13日、盛岡市議会議員選挙の投票が行われた。県職労組織内候補者「野中やすし」は、2980票を獲得し、8位で2期目の当選を果たした。「野中やすし」の議席は、組合員一人ひとりの行動結集の賜物であり、組合員の皆様の御協力に感謝する。この勝利を来たる知事選・県議選につなげよう。

今回の盛岡市議会議員選挙は、定数38人に対して史上最多の50人（現職29人、元職1人、新人20人）が立候補する大激戦であった。投票日がお盆期間であるうえに、県職員経験者が他にも複数立候補する非常に難しい情勢であり、マスコミ各社による選挙情勢の見極めも困難を極めた。こうした情勢の下、「野中やすし」は、働く者、生活者の視点から「盛岡で働き、盛岡で暮らす子どもを育て、盛岡で安心して暮らせる街をつくり、そして市民の声を市政に届けるために、2期目の立候補を決意した。働く人も、お年寄りも、子どもも安心できる、笑顔がやがや街づくり第2章に全力を挙げたい」「コンビニで売っているものの値段は東京でも盛岡でも同じである。違うのは働く者の賃金である。同一価値労働同一賃金を実現していきたい」「厳しい選挙戦。議席を確保するため、家族や職場の仲間、友人・知人へ支援の輪を広げていただきたい」などと、自身の政策を精力的に訴えた。



▲2期目の当選に喜びの万歳三唱をする山中後援会長（左）と野中ご夫婦



▲選挙中に60歳の誕生日を迎えた野中さんのお祝いに駆け付けた小西和子議員（右）

当選を勝ち取った「野中やすし」は、「組合員をはじめ、支援いただいた多くの皆様に感謝する。子どもも、お年寄りも、働く人も、みんなの笑顔がやがや街の実現のため、議会の場で懸命にがんばっていく」などと、今後の活動への決意を表明した。選挙事務所には、小西和子県議会議員もお祝いに駆け付けた。

今後、8月17日には知事選挙、25日には県議会議員選挙が告示され、9月3日に投票が行われる。推薦・支持候補者全員の当選に向け、支持を拡大しよう。

## 「希望郷いわて、その先へ。」 大攻勢をかける次の4年間



(推薦・無所属・現4期)

## 岩手県議会議員選挙 推薦・支持候補予定者

 小西 和子 (70歳) (推薦・立憲民主公認・現4期)	 佐藤 ケイ子 (66歳) (推薦・立憲民主公認・現2期)
 島山 茂 (57歳) (推薦・立憲民主公認・新人)	 柳村 一 (63歳) (推薦・無所属・現2期)
 菅野 ひろのり (46歳) (推薦・立憲民主公認・現2期)	 木村 ゆきひろ (63歳) (推薦・社民公認・現4期)
 名須川 晋 (55歳) (支持・立憲民主公認・現3期)	 岩城 げん (50歳) (推薦・無所属・現1期)
 佐々木 順一 (71歳) (支持・立憲民主公認・現6期)	

## 7・24 現業評議会・独自要求書提出 「現業職」の増員求める



▲人事課総括課長交渉を行う現業評交渉団 (右内は内城人事課総括課長)

7月24日、現業評議会（議長・工藤明彦畜産研究所分會）は、今年度の独自要求書を内城人事課総括課長に提出し、交渉を行った。

【①運転技士について】  
振興局土木部の運転技士は、業務遂行に大きく貢献している職種であると承知しており、現場の状況を把握しながら適正配置に向け

【②技能員の増員】  
退職者補充のため継続して新規採用を行ってきた。主管部から職場状況や業務実態を聞き、適切に対応す

企画室と検討を継続する。県庁車庫の運転技士については、今年度末で退職となる議会議務局の運転技士を含め、管財課や議会事務局と意見交換をしながら連携して対応するとした。交渉団から、運転技士は高齢化を迎えており、計画的な新規採用と退職者の完全補充を求めた。

【各主管室課交渉】  
県土整備企画室からは各公所への運転技士の配置は必要との考えが示されたほか、管財課運転技士の17人態勢の維持、(農林水産企画室) 技能員の労働環境整備に向け必要体制の整備に努めるとの考えが示された。

としたり。交渉団から、技能員配置がギリギリの体制であり年次休暇取得が困難。しっかりとローテーションが組める人員体制と人材育成の環境整備に向けた人員増が必要と訴えた。

記事に記載のとおり、この度の盛岡市議会議員選挙では、「野中やすし」が2期目当選を果たした。まずは率直に喜びあいたい▼全国的には、地方議員のなり手不足が問題となっている。本県においても、今年度になってから執行された市町村議会議員選挙（補欠選挙を除く）について、10市町村では競争選挙となったが、5町村では無投票となった。そうした中で、この度の盛岡市議会議員選挙では、定数38人に対して50人が立候補するという、近年まれにみる大激戦であった。立候補者や支援者にとっては大変なたたかいであったが、有権者にとっては幅広い選択肢が提供されたといえるだろう▼選挙には、誰の助けも借りずに1人で立候補することも制度的には可能だが、ほとんどの立候補者は、多くの支援者からの多大な助力を得て選挙戦をたたかう。また、立候補者はその過程で有権者の声を聴き、反応を感じ取り、次の活動に活かしていく▼本県では、県知事選挙、県議会議員選挙が間近に迫っている。私たちの声が県政の場で活かされるよう、県職員の推薦も踏まえ、しっかりと意思表示しよう。

# 県庁・盛岡支部高

## 会計年度任用職員学習会を開催

県職労県庁支部と盛岡支部は合同で、自治労県本部及び県職労本部の協力を得て、7月24日と25日の2回、「会計年度任用職員制度」等情勢学習会を開催し、合わせて98人が参加した。

学習会の冒頭、佐々木琢磨県庁支部長が「地方自治法が改正され、2024年度以降、会計年度任用職員にも勤勉手当の支給が可能となった。実際の支給には条例の改正が必要であり、

野中相談員は「職場で欠かせない存在である会計年度任用職員の『雇用継続』と『処遇改善』は、当事者はもとより、自治体にとっても極めて重要な課題」「岩手県の職場ではパートタイムでの任用が大半であり、かつての臨時・非常勤職員よりも労働密度や責任が重くなっている。フルタイムで働ける体制の整備が必要」「盛岡市の会計年度任用職員の処遇改善は、県にも波及を期待できる。私も盛岡市議会議員を務めており、盛岡市で今後も処遇改善を求めていきたい」と述べた。



▲7月25日の会計年度任用職員学習会の様子

### 団結の力で夢のある能開行政を

#### 職訓協第47回定期総会開催



▲運動前進に向け多くの意見が出された職訓協定期総会

7月22日、職業訓練職員協議会第47回定期総会を県公会堂で開催し、2022年度の総括、2023年度運動方針及び役員体制を確

立した。来賓に小田嶋中央執行委員長及び野中靖志盛岡市議員を迎え、挨拶を頂いた。齋藤議長は、「指導員の年齢構成のアンバランスが続く、各職場での苦労がある。会員皆さんから問題点を話し活発な意見交換をお願いしたい」とあいさつ。

各会員からは、再編整備計画に関する質問・意見が多く出され、主管室・県職労ともに情報共有しながら進めていくという執行部が

らに回答があった。また各種行事についても今年度は確実に実行していくということであった。



▲齋藤裕之議長

新役員体制は次のとおり。議長 齋藤 裕之 (産技短矢中校)

その後、県職労本部役員から、有給の特別休暇等、これまで県職労が訴えて実現した処遇改善について説明した。

### 気仙・善石・二戸支部で体制を確立

県職労気仙支部は7月28日、釜石支部と二戸支部が8月1日にそれぞれ新体制を確立した。気仙支部は口

岩喜幸さん、釜石支部は大崎勝弘さん、二戸支部は佐藤勝志さんが選出され、2023年度の支部活動をスタートした。



▲口岩気仙支部長

役員・氏名は次のとおり。

### 公務員の政治活動への関わり方

私はケースワーカーですが、担当世帯を訪問し、選挙の話をするのは違法でしょうか。

「選挙の話」といってもいろいろあります。まずは特定候補者への投票依頼から一般的な政治の動向に関するところまで種々の態様に分けることができます。

この場合、特定候補者への投票依頼は「公務員の地位利用」として許されません。ケースワーカーの担当世帯に対して有する影響力は否定し難いからです。また、前問で触れたように、ケースワーカーとしての地位を利用した①推薦行為、②選挙運動準備行為、③後援団体の結成行為等、④文書図画等の掲示頒布等の行為、に直接かかわることはさけるべきです。特に、⑤利益供与行為などは許容の余地すらありません。

かな場合は、公務員の地位利用による選挙運動とみなされるおそれがあります(公選法136条の2)。また、特定の候補者について投票を得しめぬ目的の戸別訪問であるとされるおそれもあります(同法138条1項)ので、この点注意を要します。

しかし、例えば「平和憲法を改悪しようとする議員は許せません」「弱い者いじめの政治は止めて欲しいです」「ね」などと話すことは可能です(Q34参照)。もちろん、福祉政策に消極的な政党・政治家等を指摘し、批判する等のことは何ら地位利用にもならず、戸別訪問その他の禁止規定に触れるものではありません。反対に福祉政策を積極的に推進しようとしている政党、政治家の話をしたとしても同様です。

以上のように留意すべき点は少なからずありますが、選挙にかかわる話が一切できない訳ではありません。ケースワーカーの職務遂行中の選挙とのかわりあいについて述べてきましたが、その地位を離れて、例えば労働組合員あるいは一般人として選挙の話をすることは、戸別訪問等の規定に触れないのであれば、原則として行うことができます。

「選挙の話」といってもいろいろあります。まずは特定候補者への投票依頼から一般的な政治の動向に関するところまで種々の態様に分けることができます。

かな場合は、公務員の地位利用による選挙運動とみなされるおそれがあります(公選法136条の2)。また、特定の候補者について投票を得しめぬ目的の戸別訪問であるとされるおそれもあります(同法138条1項)ので、この点注意を要します。

団体生命共済 住まいる共済

1契約で組合員の家族もカバー

個人賠償責任共済

他人の物を壊したり他人を負傷させてしまったときの損害賠償を保障

★団体生命共済または住まいる共済の火災共済に30口以上加入している場合に付帯できます

全国で進んでいる自転車保険(共済)の加入義務化・努力義務化にも個人賠償責任共済なら対応できます!

最高保障額 3億円

不明な点があれば、まずは組合にご連絡ください。

くみん共済(全労済) 全国労働者共済生活協同組合連合会

自治労共済 推進本部 全日本自治体労働者共済生活協同組合

くみん共済 NEWS 5122V116

団体生命共済 住まいる共済の掛金に 月額200円のプラスで

法律上の損害賠償責任を負ったときに保障

例えば... 子どもが自転車で他人にけがをさせた

住まいる共済の掛金は組合によっては年私となります。

「くみん共済coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地(先)の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

- 副議長 加藤 邦庸 (産技短水沢校)
- 副議長 白石 昌人 (千厩高等技術専門学校)
- 事務局長 長門三喜男 (産技短矢中校)
- 事務局長 鈴木 大輔 (宮古高等技術専門学校)

- 事務局長 田中 俊行 (産技短矢中校)
- 自治研担当 佐々木 治 (産技短水沢校)

- 副支部長 山口 正希 (水産振興センター)
- 書記長 長崎 翔太 (土木センター)
- 書記次長 佐藤 徹郎 (農林振興センター)
- 執行委員 大槻 康幸 (地域振興センター)
- 鈴木 悠大 (地域振興センター)
- 金澤 海斗 (保健福祉センター)
- 佐々木真人 (農林振興センター)
- 細越 翔太 (農林振興センター)
- 薄衣真一朗 (水産振興センター)
- 千葉 覚 (保健福祉センター)
- 馬淵 高也 (農林振興センター)

- 支部長 大崎 勝弘 (農林部)
- 支部長 聖 (水産技術センター)
- 書記長 小岩 敬洋 (土木部)
- 書記次長 藤丸 博之 (経営企画部)
- 執行委員 山崎 知之 (保健福祉環境部)
- 木下 聖子 (保健福祉環境部)



▲大崎釜石支部長

- 支部長 勝志 (県税室)
- 支部長 勝志 (県税室)
- 書記長 伊藤 毅 (農村整備室)
- 書記次長 岩崎 有喜 (三好技術専科)
- 執行委員 加藤 真城 (農林振興センター)
- 高橋めぐみ (農林振興センター)
- 羽田 厚 (東北農業研究所)
- 藤本 美明 (土木センター)
- 成田 恵美 (農林振興センター)
- 小林 卓裕 (農村整備室)
- 山本 和彦 (土木センター)
- 佐々木朝陽 (保健福祉センター)
- 中家 武雄 (農村整備室)
- 齋藤 智子 (農林振興センター)



▲佐藤二戸支部長

- 副支部長 藤原 遼人 (地域振興センター)